

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	災害時に誰もが安心できる環境づくり
事業名(副) ※任意	社会的弱者と呼ばれる方達のサポート事業

入力数 主 17 字 副 19 字

実行団体名	一般社団法人 あゆみ
資金分配団体名	一般財団法人日本未来創造公益資本財団

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

**SDGsとの関連**

<b>ゴール</b>
_3.すべての人に健康と福祉を
_5.ジェンダー平等を実現しよう
_7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021年4月 ~ 2022年3月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (九州エリア)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	九州内の重度心身障害児さんや、医療的ケア児さんをお預かりしている通所施設、熊本県域子ども食堂運営者、第3期（半年後をめぐり）九州各県の子どもネットワークの代表者を介して、各県の子ども食堂運営者、生活困窮支援者、子ども、親、高齢者、障がい者等、困り感のある方	事業 対象者人 数	10,000人～
------	-------------------	------------	---	---	--	-----------------	----------

**I.団体の社会的役割**

<b>(1)申請団体の目的</b>
当団体の目的は、社会や地域福祉の視点を大切にしながら、子どもから高齢者まで、福祉避難所などで要支援者といわれる社会的弱者の方も、全ての人が生きがいをもち、少しでも笑顔になれたり、温かい気持ちを感じられるような地域を作ることを目的として、関連事業所と共に、保育所の運営や、障害をお持ちのお子さんのお預かり、重度心身障害児さんのお預かり、はぐくみ（地域・子ども）食堂の運営や、様々な機会の提供を行なう。
<b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>
前身は平成18年5月にNPO法人として登記 子育て環境の支援、地域づくり、人材育成の事業を行い、行政施設の指定管理も行う。2015年別法人で保育事業開始 2017年4月重度心身障害児さんのお預かりの事業などを行う。子ども食堂は6年目。 ○重度心身障害児さんを中心としたお預かりと療育 ○研修会及び人材育成事業 ○行政、民間事業者等との連携推進事業 ○SNS等、情報発信事業 ○災害時などの支援活動

入力数 (1) 200 字 (2) 200 字

**II.事業の背景・社会課題**

<b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>
コロナ禍において社会経済の悪化により、厳しい環境で生活している社会的弱者の家庭はさらに深刻な環境を強いられる様になってきた。行政や社協の様々な支援制度があるが、その制度が利用できない子育て家庭や、困窮したご家庭が多くみられ、厳しさが増す一方だった。 また、重度心身障害児さんをお預かりする各現場からも、学校や保育園などに行くことができない、外に出られないということで、ご家族も含めて深刻な事態に陥っている。子どもたちをも取り巻く環境に多大な影響を及ぼす結果が浮き彫りになってきた。 社会的弱者の方たちがコロナ禍の中、生きていくための生命線が脆弱になりつつあることが分かった。重症児さんのお預かりをしている施設も、子ども食堂運営者も非常に不安な気持ちを抱えて活動をしている。さらに、衛生面での確保などの運営費用がかさみ、運営に苦悩しながら、疲弊していく姿も見られ、このような中で、災害が起こったらどうなるのだろうと考える場面も多々見られた。様々な社会手弱者を支援する運営者が、活動に自信を持ち、災害時にも自分達で動ける環境を作ることや、災害時に支援の手があることで、安定した活動ができ、常に安心感のある中で運営ができるような支援が必要である。  今回の申請で行う事業のように、ソフト面ハード面の支援体制を構築しながら社会課題に向き合う必要がある。災害時の対応支援ができる24時間蓄電可能でかつキッチンカーの配置のハード面、そして災害時に対応できる人材を九州管内で数多く育てておく。防災士をはじめ各県の子ども食堂コーディネーターと連携して、災害時にコーディネートができる人材を配置するというソフト面の事業の両輪での体制づくりを行いたいと考えている。

入力数 728 字

**III.事業内容**

(1)事業の概要
<p>○熊本市内の拠点となる重度心身障害児さんの通所施設を受け入れ拠点とし、自家発電システム（走行充電・太陽光発電⇒リチウム蓄電池）の備わったキッチンカーを配置し、終日配電ができる仕組みを作る。</p> <p>○被災地で、多様な形で、炊き出しのできるキッチンカーを造作する。</p> <p>○シンポジウム等の開催 各種専門家を交え災害時に備えた講演会の実施、啓発活動や企業等との意見交換を開催する。</p> <p>○社会的弱者といわれる方たちへの理解を促すため、地域での炊き出しと共に勉強会の開催をおこなう。</p> <p>○通信設備を整えzoomやYouTubeなどでの防災やコロナ対策などの知識についての配信を行う。</p>

入力数 280 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>今回避難所、福祉避難所に行けないような要配慮者の方たちを中心に支援していく体制を作ることで、地域の要配慮者の方たちや、そのご家族が初期から安心して過ごせる仕組みを作る。また初期初動で、電気の供給が終了後は直ちに炊き出しのできる体制に移行し、要配慮者を中心に温かな食事をとることのできる仕組みを作り、日頃から訓練を行っていた、子ども食堂と連携して、安定供給になるまで支援を行う。</p>

入力数 189 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>今回避難所、福祉避難所に行けないような要配慮者の方たちを中心に支援していく体制を作ることで、地域の要配慮者の方たちや、そのご家族が災害時も初期から安心して過ごせる仕組みを作る。また初期初動で、電気の供給が終了後は直ちに炊き出しのできる体制に移行し、要配慮者を中心に温かな食事をとることのできる仕組みを作り、日頃から訓練を行い、子ども食堂と連携し次の支援者が来るまでの支援を行う。</p>	<p>災害時において停電などの不具合において、電気設備の必要な医療的ケア児などが、安心して過ごせている環境ができています。</p> <p>各県にいくつかの子ども食堂が地域の防災拠点として活動ができるようになっている</p>	<p>重症児通所施設、および子ども食堂と連会協定等をむすべている</p>	<p>事業実施中に各県の重症児通所施設とハブとなる施設が2つ以上連携協力ができるハブとなる子ども食堂が各県に3つ以上</p>	<p>2022年2月末</p>

(4)活動	時期
蓄電・キッチンカーの整備事業	2021年3月～2022年2月
キッチンカー準備	2021年3月～2021年10月
説明会・講習会・研修の実施	2021年3月～2022年2月
チラシ配布 HPの充実	2021年3月～2022年2月
講演会の実施	2022年2月
災害時支援コーディネーター配置	2021年3月～2022年2月

#### IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>○全体把握 プロジェクト統括責任者兼実務責任者 野村順子（・一般社団法人あゆみ 代表理事 ・株式会社はぐくみ 代表取締役 ・子どもから地域へ広がれネットワーク事務局長・一般社団法人全国重症児者デイサービス・ネットワーク理事）</p> <p>○プロジェクトアドバイザー 中原 春奈(事務局) 西田 紘美(広報・会計)</p> <p>○全国重症児者デイサービスネットワークアドバイザー 伊藤 毅（・一般社団法人全国重症児者デイサービス・ネットワーク代表理事・社会福祉法人ふれ愛名古屋 理事長） ○九州沖縄ONE TEAM 子ども食堂ネットワークアドバイザー 長迫 和宏（・こども食堂サポートセンター北九州）</p>
(2)他団体との連携体制	<p>全国重症児者デイサービスネットワーク⇒全国の重度心身障害児さんの通所施設</p> <p>九州沖縄ONE TEAM（九州沖縄の中間支援11団体） ⇒ 九州沖縄こども食堂「</p> <p>熊本県社会福祉協議会、社会福祉法人等</p> <p>企業 ⇒ 企業のCSR・資金調達・プロボノ</p> <p>大学等 ⇒ 学生ボランティア、クラウドファンディング、広報、専門分野からの参画</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>職員雇用について職員配置や能力の問題。</p> <p>またコロナ禍により、研修などが集まることに懸念も感じる方もいると思うが、ZOOMなどを上手に使いながら行う。</p> <p>休眠預金のために作成書類など多岐にわたるので、業務の増加が予測される。今後法人書類整備はさらに欠かせないものなので、ご教示いただきながら取り組んでいく</p>

#### V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<p>事務局を務める子ども食堂ネットワークで、熊本県下の子ども食堂へのアンケート調査を2018年（簡易版）</p> <p>2019年に詳細版を実施 本事業についての集計を民間事業者の力を借り行った。</p> <p>また、熊本学園大学社会福祉学部社会福祉学科の豊田教授や、子ども家庭福祉学科吉津教授に依頼し分析を発表している。</p> <p><a href="https://researchmap.jp/masako10/misc/27452267/attachment_file.pdf">https://researchmap.jp/masako10/misc/27452267/attachment_file.pdf</a></p>				